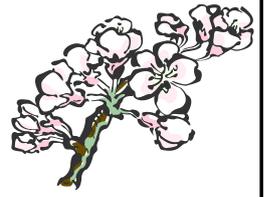




# 二俣川小だより



3月号

横浜市立二俣川小学校 平成28年2月26日  
発行責任者 校長 野田 こずえ

## 春に寄せて

野田 こずえ

先週、職員室前の廊下でフキノトウの鉢植えを見つけました。校舎の裏に今年もたくさん顔を出していたのを、石井技能吏員が鉢に移し、飾ってくれたのです。確か去年は、水盤にたくさん浮かべてありました。「あ、これ見たことある。」「フキノトウだよ。教科書に載ってた。」「どこかにあるのかな。」「子どもたちの声がします。」「教室にお借りしてもいいですか。『のはらうた』の勉強をするので、子どもたちに見せたいのです。」職員が大事そうに手に取っています。学校には春の訪れを教えてくれるものがたくさんあります。2月中旬には正門脇の河津桜が開花し、今は桜色と若葉色の美しいコントラストを見せています。なかよし池のほとりの紅梅は立春の声を聞く前からほころんだのに、正門近くの白梅はなかなか咲かずやきもきしていましたが、今週、優しい薄桃色の蕾がようやく開き、見事な白い花を見ることができました。1年生はやっと芽を出したチューリップに目を輝かせ、栽培委員会の子どもたちは菜の花に優しく水をやります。子どもたちは春の気配をたくさん感じています。お子さんと一緒に春探しのお散歩を楽しむのもお勧めの季節です。

最近、北野武さんの「新しい道徳『いいことをすると気持ちがいいのはなぜか』』という本を読みました。「自分なりの道徳とはつまり、自分がどう生きるかという原則だ。」という帯の言葉に興味をもったからです。本の中には「え、そうかな。」と思うこともありました。痛快な文章のあちこちに、なるほどと思うこともたくさんありました。その中に、行列のできるラーメン屋さんはいまに決まっているけれど、武さんは並べないという話がありました。お母さんが、「行列に並んでまで食べ物を食うのは卑しい。」と言われたからだそうです。なぜそうなのかなんて理屈は言わなかったけれど、しっかりと自分の中に染み込んでいるのは、お母さんが心の底からそう思い、自分の子どもにはそういう人間になってほしくないと思い本気で自分に語ったからだ、武さんは仰っています。「道徳っていうのは、つまり誰が、どんな気持ちで話すのかが重要なのだと俺は思う。」と書いてありました。おいしいものを食べようと行列に並ぶことがどうかとか、お母さんの道徳観がどうかということではなく、親が子どものことを心底思い、真剣に伝えることは、子どもの心にも体にもしっかりと染みこむものなのだ。あと、「理解する」のではなく「わかる」のだろうなあと思いました。道徳観だけでなく、親として、子どもたちの育ちに関わらせてもらう者として、いかに真剣にその成長を願うかが勝負だなど思いました。

さて、今年度も、PTA 役員はじめ保護者の皆様には、様々な場面で本校の教育活動にご支援・ご協力をいただきました。また、登下校の見守り、読み聞かせ、家庭科実技補助、そして和太鼓クラブ合唱クラブへのご協力と、ご自分の時間を子どもたちのためにつかい、本校の教育活動と子どもたちの安全・安心な学校生活を支えてくださった皆様の中には、保護者以外の方もたくさんいらっしゃいます。本当に有り難いことだと改めてお礼申し上げます。そんな皆様に子どもたちが感謝の気持ちを伝える「ありがとうの会」を、今年も明日26日(金)の昼の放送で行うことにしました。一緒に給食を召し上がっていただき会話することで、つながりができ、相手意識のある感謝の気持ちをもてるようになってほしい、そして心のこもった挨拶ができる人になってほしいと思っています。いつもお世話になっていながら、初めて会うような気がして緊張する子もいると思いますが、少し改まった気分でするのもいい経験だと思います。二俣川小学校の子どもたちのためにご自分の「いのち」である時間をつかってくださったということを感じ、自分も誰かのために時間をつかおうと思える人になってほしいと心から願っています。